



オンラインコミュニケーション 利用実態調査結果レポート

2015年3月2日

青少年たちのインターネット利用について考える研究会

調査結果の主なポイント

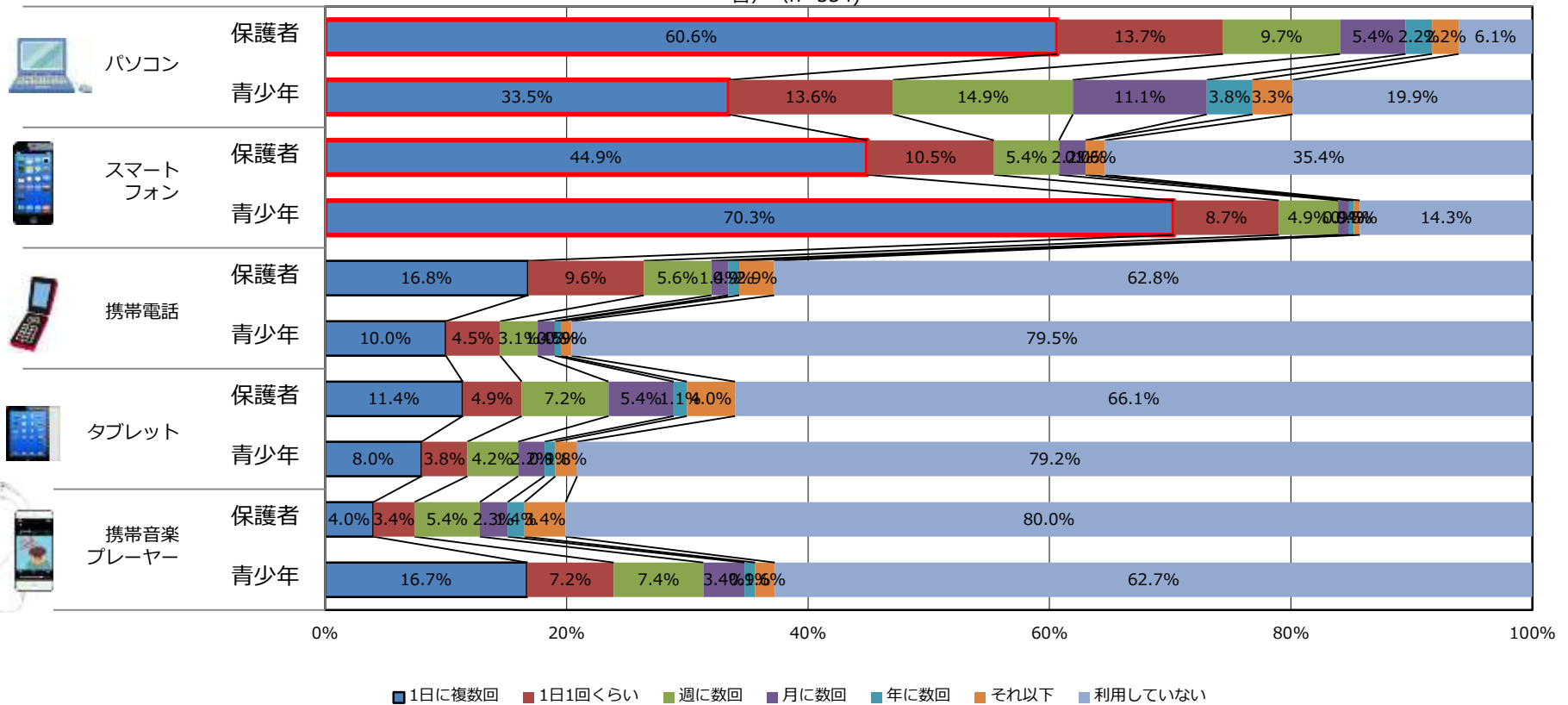
1. 「親しい相手と」「一日何度も」「大人数のグループで」が青少年のオンラインコミュニケーションの特徴
 - オンラインコミュニケーションでやりとりする相手は、保護者、青少年ともに、「家族」や「友達」など親しい相手との利用が主でした。しかし利用頻度については、「一日複数回、友達と連絡をとる」保護者が18.6%にとどまる一方、青少年では46%と、二倍以上の開きがあります。また、「1回の会話でやりとりする相手の数」についても、「すべて顔見知りの相手10人以上」とやりとりをしたことがある保護者は31%だった一方、青少年では67.9%とこちらも二倍以上となり、オンラインコミュニケーションの利用実態が保護者と青少年で大きく異なることが定量的に裏付けられました。
2. 「スマートフォン」と「メッセージャー」が青少年の主なコミュニケーション経路に
 - オンラインコミュニケーションで利用する機器は、保護者ではパソコン（60.6%）、青少年ではスマートフォン（70.3%）がそれぞれ最多でした。利用しているソフト・アプリについて、「メール」は保護者96%、青少年92.2%とほとんど差はありませんでしたが、「メッセージャー」は保護者65%、青少年92.8%と30ポイント近く差があることが分かりました。
3. オンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安を保護者よりも強く感じている青少年
 - 「感情の伝わりにくさ」などのオンラインコミュニケーションの特性については、青少年の方が保護者よりも「理解している」割合が高い傾向にありました。その一方で、「伝わる文章がうまく書けないことがある」「相手の本当の気持ちがよく分からないことがある」など、オンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安を感じている割合は、いずれの項目についても保護者と比べて青少年の方が高いことが分かりました。

調査概要

- 調査期間：2014年9月19日～2014年9月22日
- 調査方法：ウェブアンケート方式（ジャストシステム社に委託）
- 調査対象
 - 第一子に高校生・大学生の子どもをもち、オンラインでコミュニケーションをとっている保護者
 - オンラインでコミュニケーションをとっている高校生・大学生
- 回答者の構成
 - 保護者
 - 父親 50%、母親50%
 - 30代 3.4%、40代 51.3%、50代 45.3%
 - 高校生の青少年を持つ保護者 49.8%、大学生の青少年を持つ保護者 50.2%
 - 青少年
 - 男子 50%、女子50%
 - 高校1年生 11.8%、高校2年生 17.0%、高校3年生 21.6%、大学1年生 12.3%、大学2年生 12.9%、大学3年生 12.0%、大学4年生 12.5%
- 有効回答数：1106件（保護者 554件、青少年 552件）

オンラインコミュニケーションに使う 機器と利用の頻度

あなたが現在、オンラインコミュニケーションをする際に利用している機器と利用頻度について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



保護者はパソコン、青少年はスマートフォンの利用頻度が高い

オンラインコミュニケーションに使う機器と利用の頻度

(保護者) (スマートフォン利用経験年数による差)

※「利用していない」回答を除いて再集計



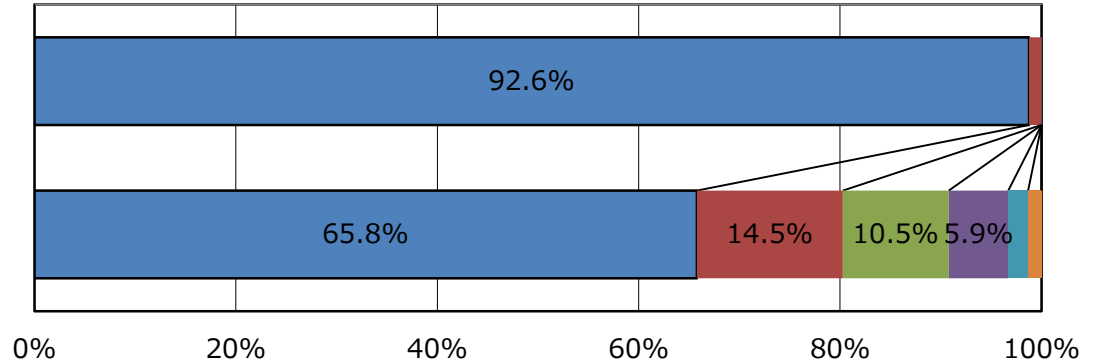
あなたが現在、オンラインコミュニケーションをする際に利用している機器と利用頻度について当てはまるものをお答えください。(単一回答)



パソコン

1年以内 (n=81)

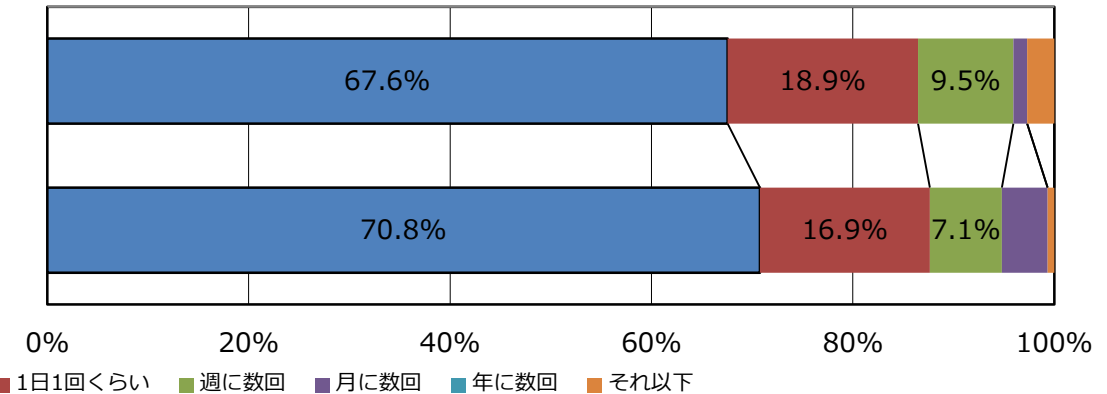
3年以上前 (n=100)



スマートフォン

1年以内 (n=74)

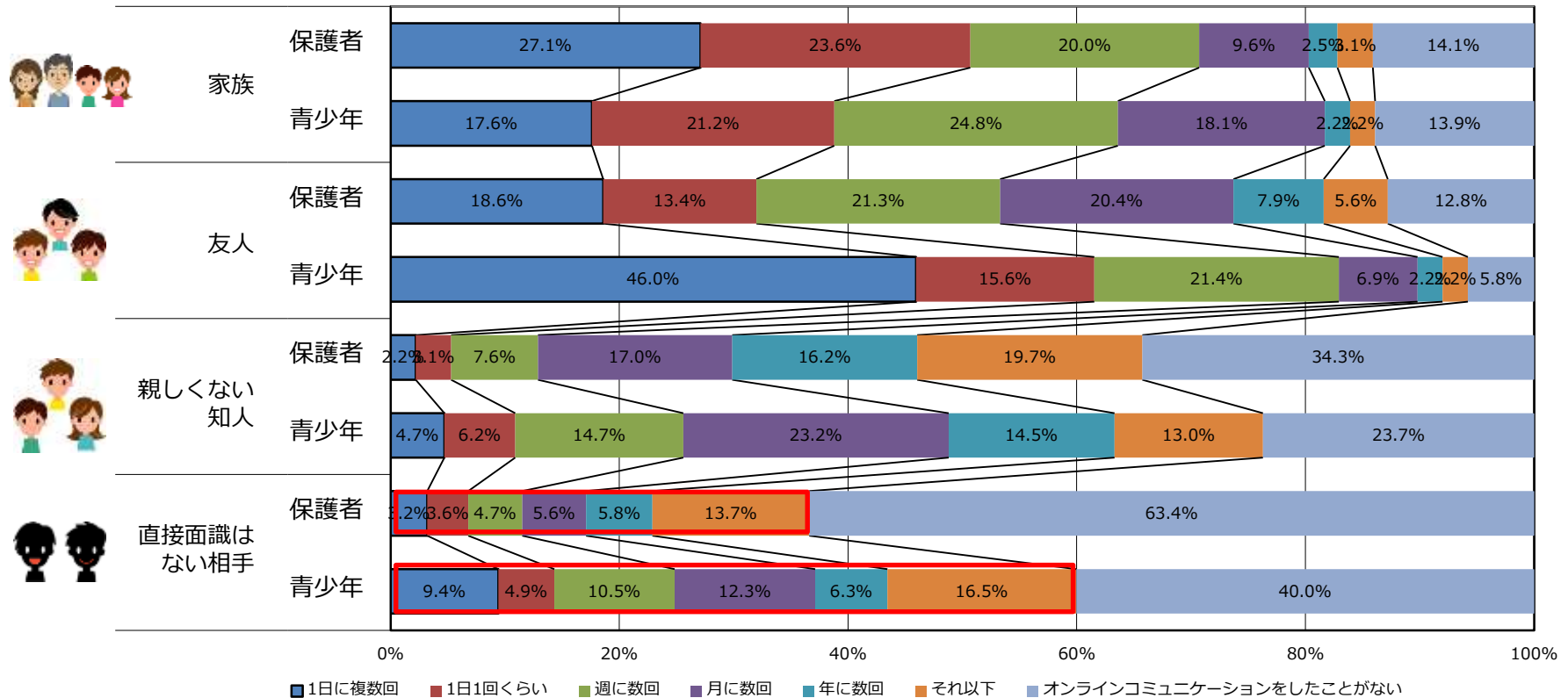
3年以上 (n=154)



スマートフォンの利用経験が長い保護者はパソコンの利用頻度が低い

オンラインコミュニケーションの相手と頻度

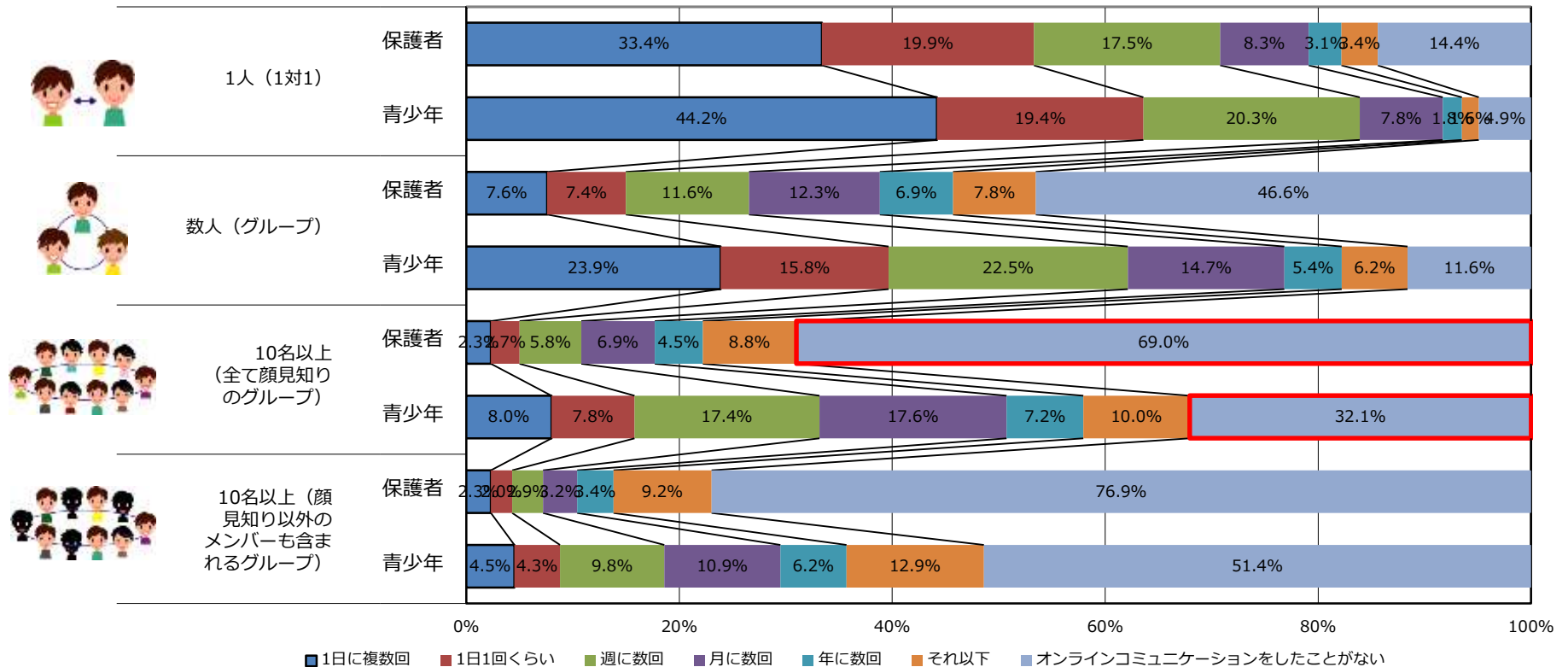
あなたは次にあげる相手と、どのくらいの頻度でオンラインコミュニケーションをしていますか？当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



保護者と青少年で差が大きいのは「友人とのコミュニケーション頻度」や「面識のない相手とのコミュニケーション経験」

オンラインコミュニケーション相手の人数と頻度

あなたが1回のオンラインコミュニケーションの中で会話をする人数は何人ですか？当てはまるものをすべてお答えください。（単一回答）（n=554）

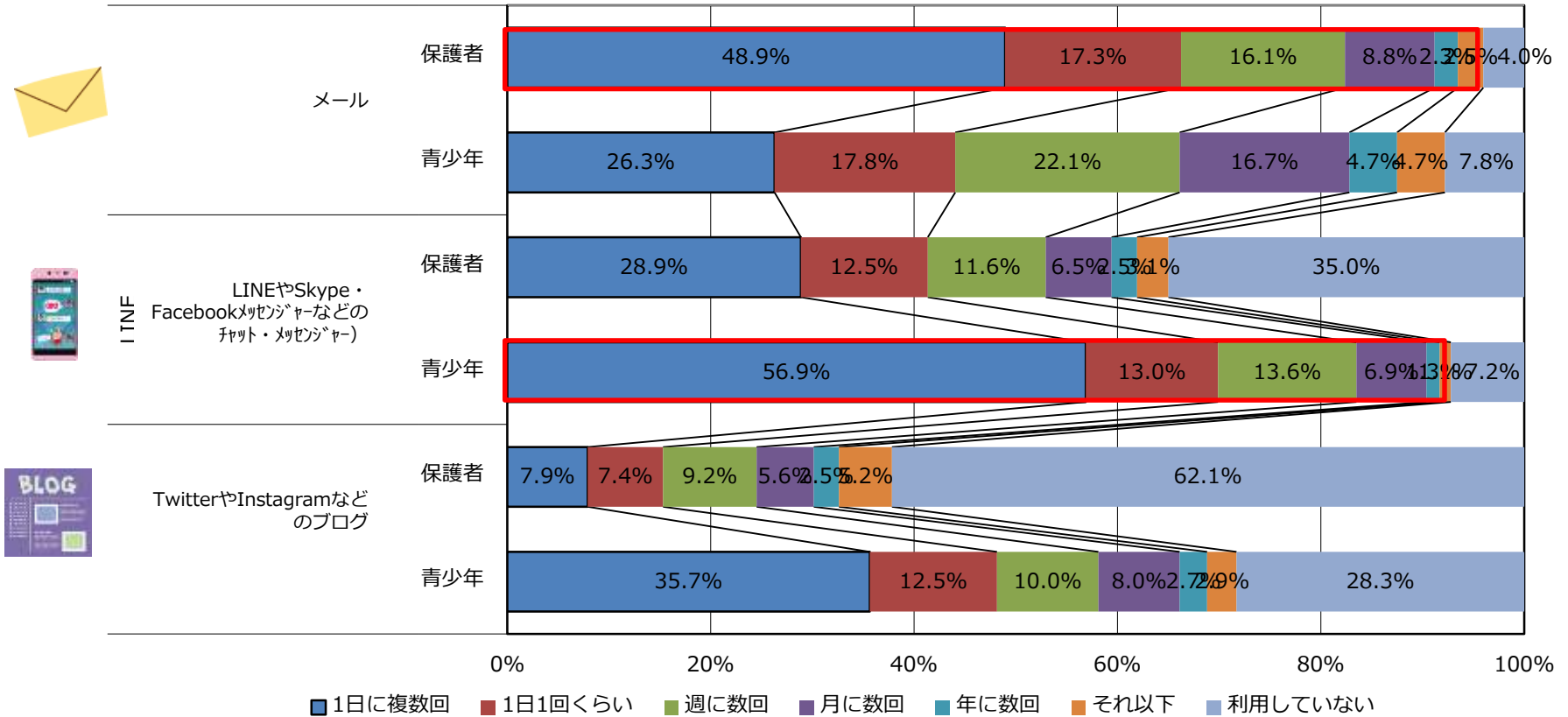


保護者の6割以上が「10名以上」でのオンラインコミュニケーション経験なし



アプリ別の利用頻度

あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



保護者はメール、青少年はメッセンジャーやブログを多用

アプリ別の利用頻度 (学齢で差が大きいもの)



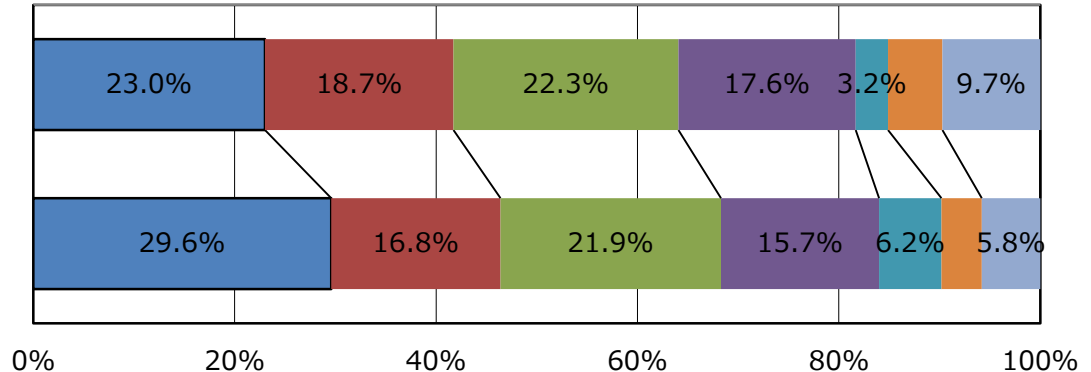
あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお答えください。(単一回答)



メール

高校生(n=278)

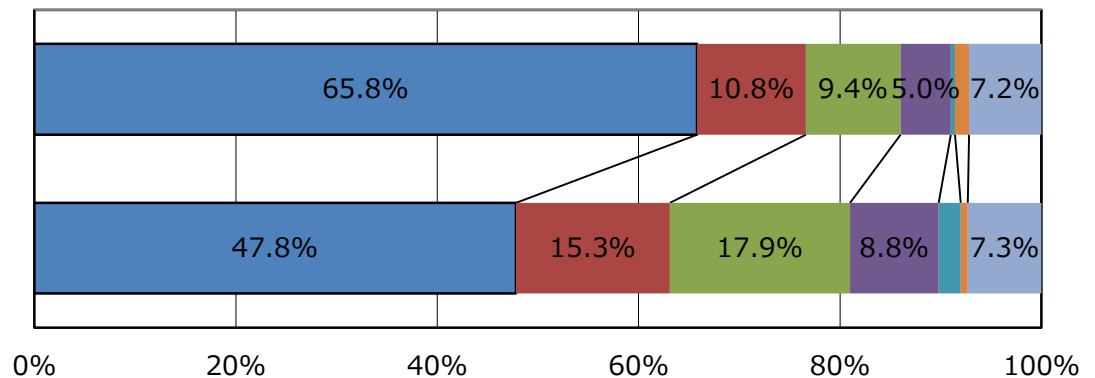
大学生(n=274)



LINEやSkype・
Facebookメッセン
ジャーなどのチャット・
メッセージ

高校生(n=278)

大学生(n=274)



大学生は「メール」、高校生は「メッセージ」の利用頻度がやや高い

アプリ別の利用頻度

(スマートフォン利用の有無)



(青少年)

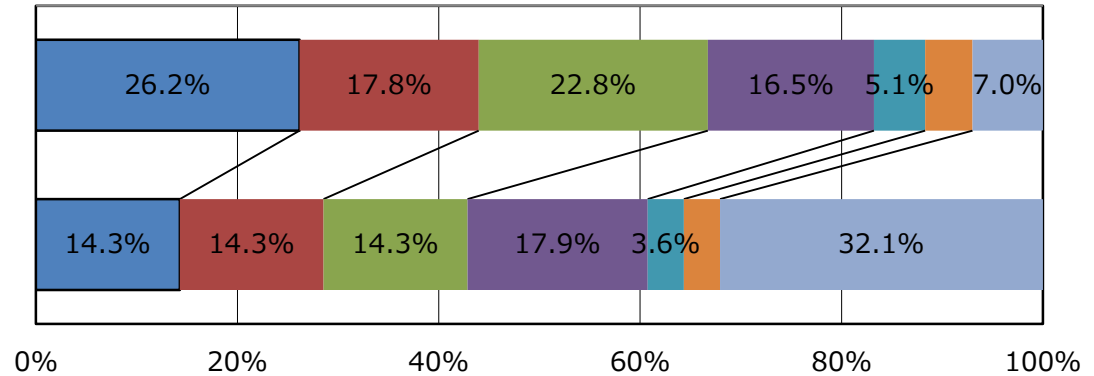
あなたがオンラインコミュニケーションで利用するソフト・アプリとその頻度について当てはまるものをお応えください。(単一回答)



メール

スマホ利用者(n=473)

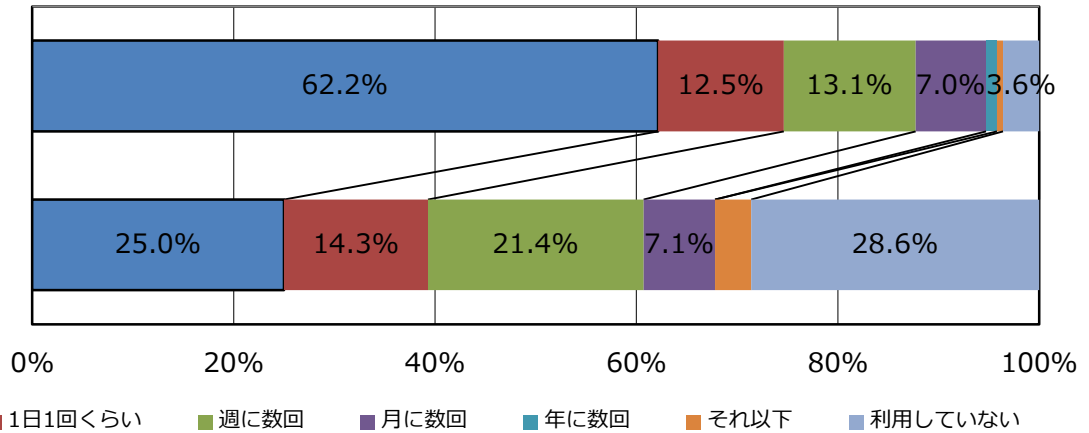
スマホ非利用者(n=28)



LINEやSkype・Facebookメッセンジャーなどのチャット・メッセージ

スマホ利用者(n=473)

スマホ非利用者(n=28)

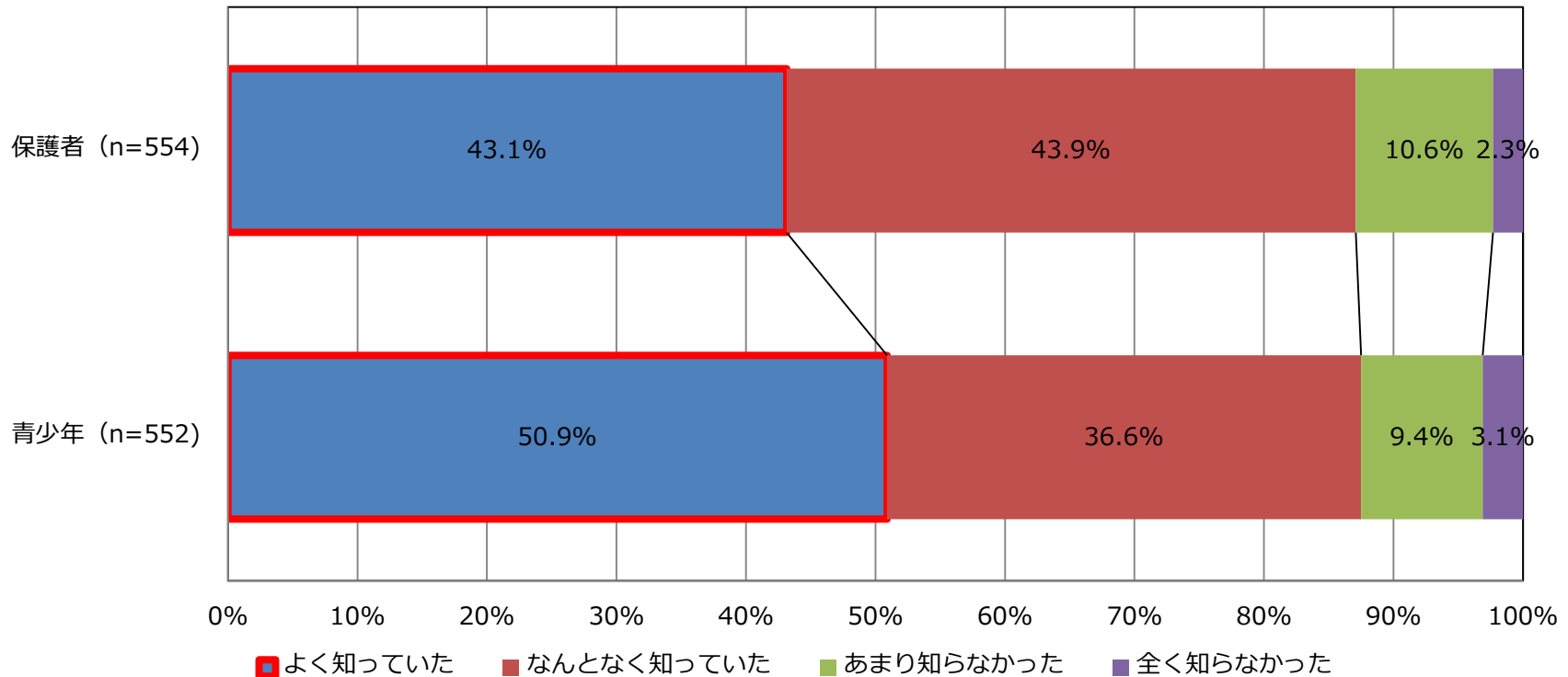


■ 1日に複数回 ■ 1日1回くらい ■ 週に数回 ■ 月に数回 ■ 年に数回 ■ それ以下 ■ 利用していない

スマートフォン利用者はメール・メッセージを多用

オンラインコミュニケーションの特性の理解 (感情の伝わりにくさ) (保護者と青少年を比較)

オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、感情などがうまく伝わりにくい』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（単一回答）

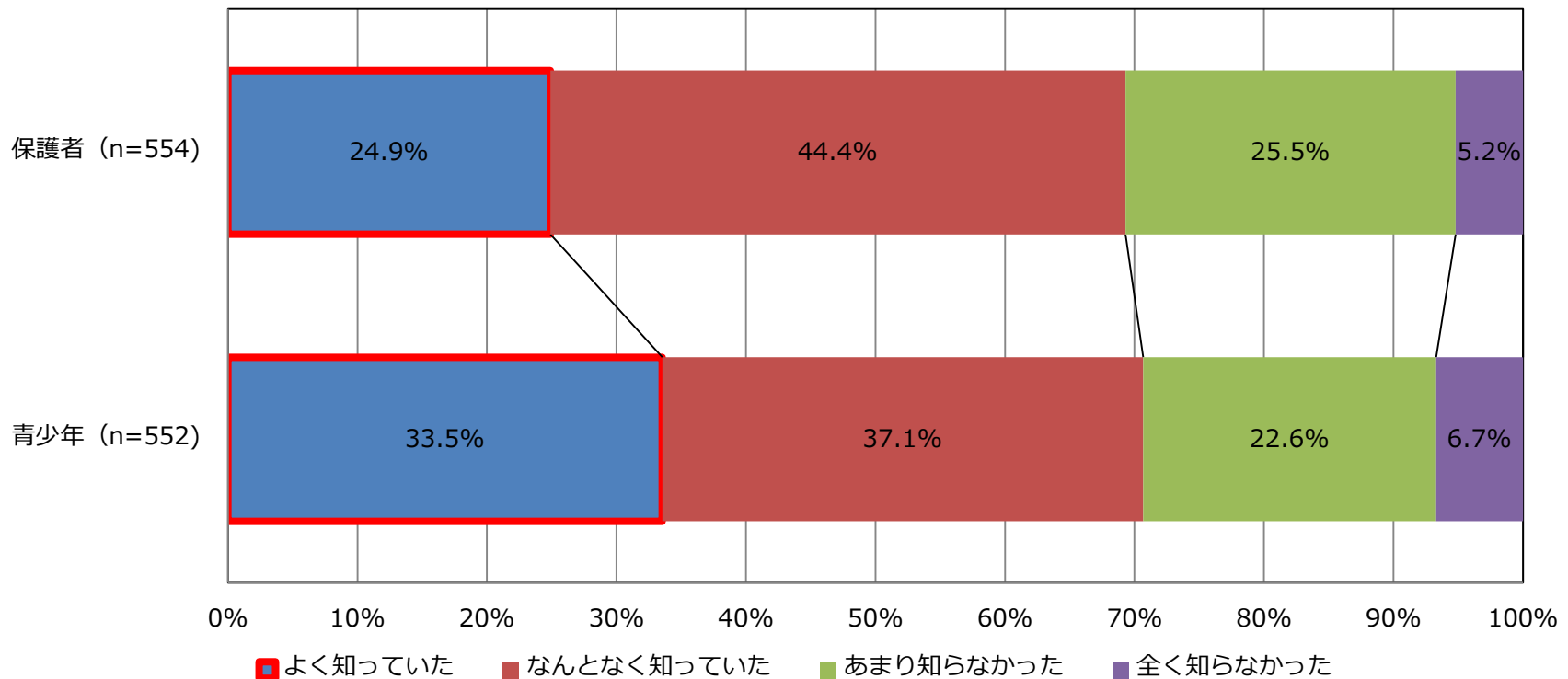


保護者よりも青少年の方が「よく知っていた」と回答



オンラインコミュニケーションの特性の理解 (自己開示の促進) (保護者と青少年を比較)

オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、自分の気持ちや情報を必要以上に多く伝えてしまいやすい（つい打ち明けてしまうなど）』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（単一回答）



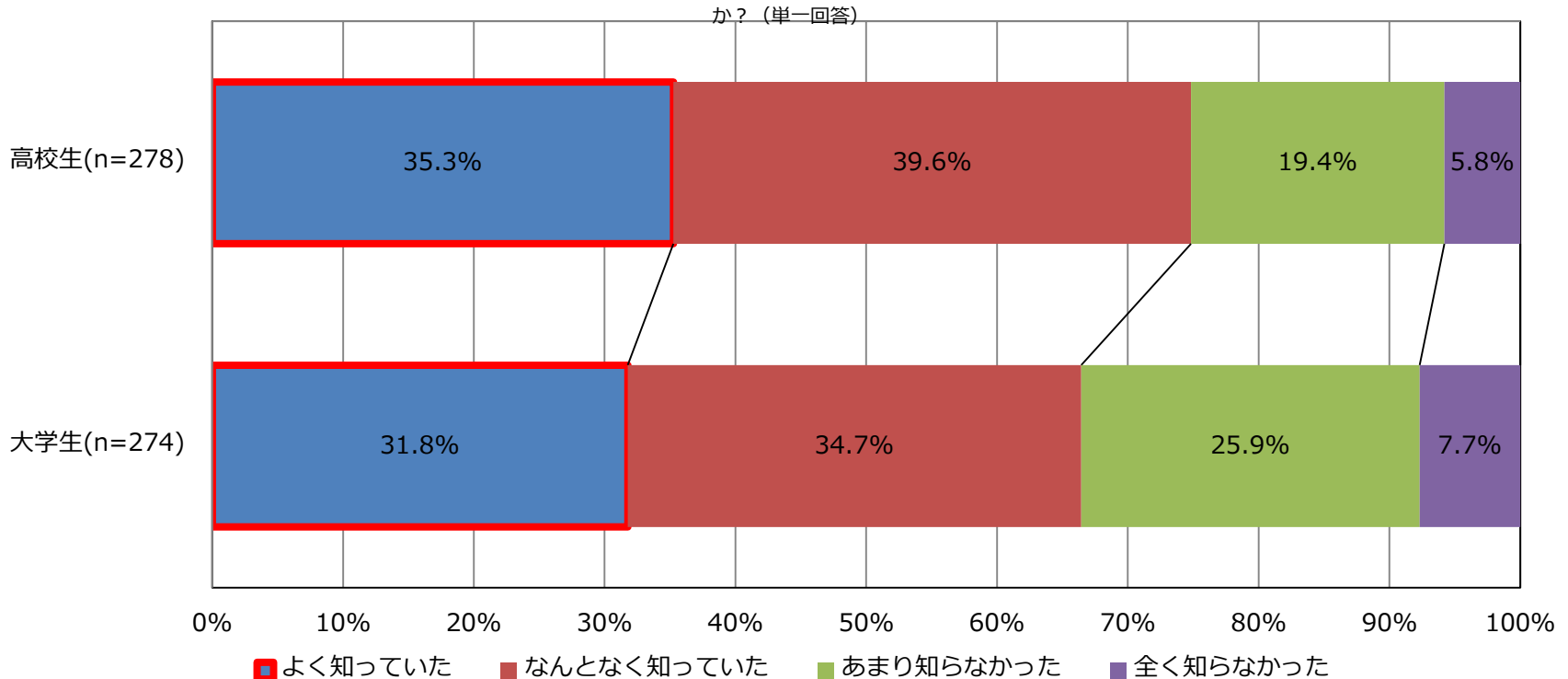
「自己開示の促進」についても青少年の方が「よく知っていた」割合は高い



オンラインコミュニケーションの特性の理解 (自己開示の促進) (学齢による比較)



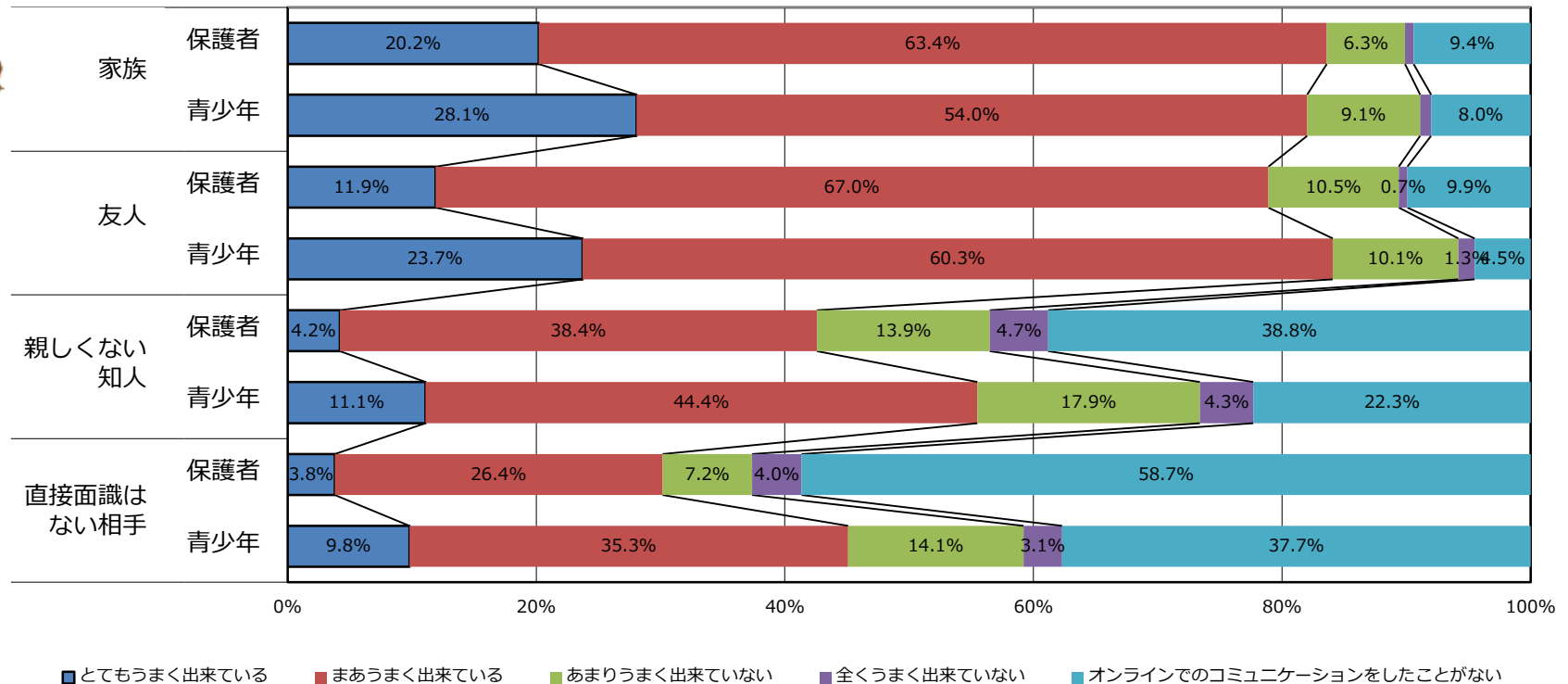
オンラインコミュニケーションには『対面でのコミュニケーションや音声でのコミュニケーション（電話など）と比べて、自分の気持ちや情報を必要以上に多く伝えてしまいやすい（つい打ち明けてしまうなど）』という性質があると言われていますが、あなたはこれを知っていましたか？（単一回答）



高校生の方が「知っている」の割合が高い

オンラインコミュニケーションへの自信

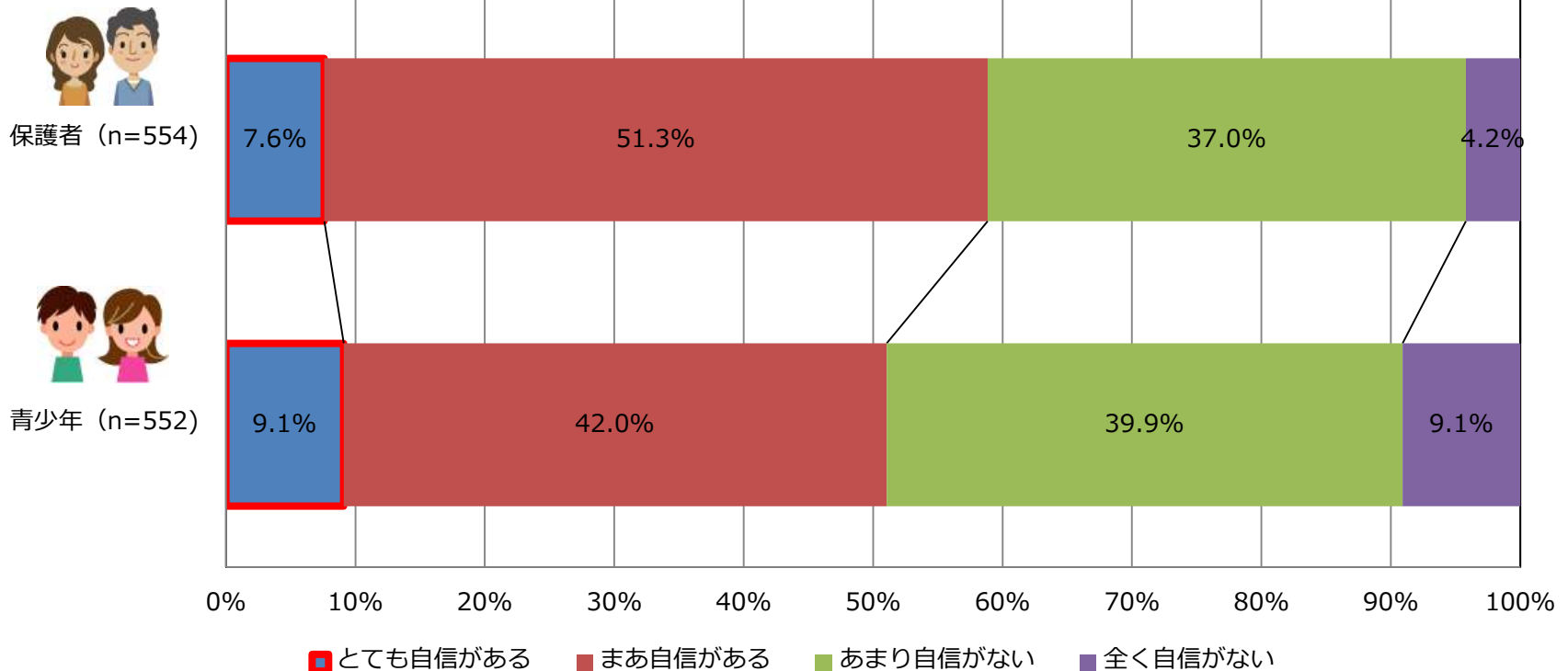
あなたは、パソコンや携帯電話、スマートフォンなどを使い、各種の連絡や気持ちの伝達など、コミュニケーションをうまく進めることが出来ていますか？それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。（単一回答）（n=554）



相手を問わず、青少年の方が「うまく出来ている」との回答率が高い

オフラインコミュニケーションの自信

あなたは、対面や電話でのコミュニケーションを日頃からうまく進められているという自信がありますか？（単一回答）



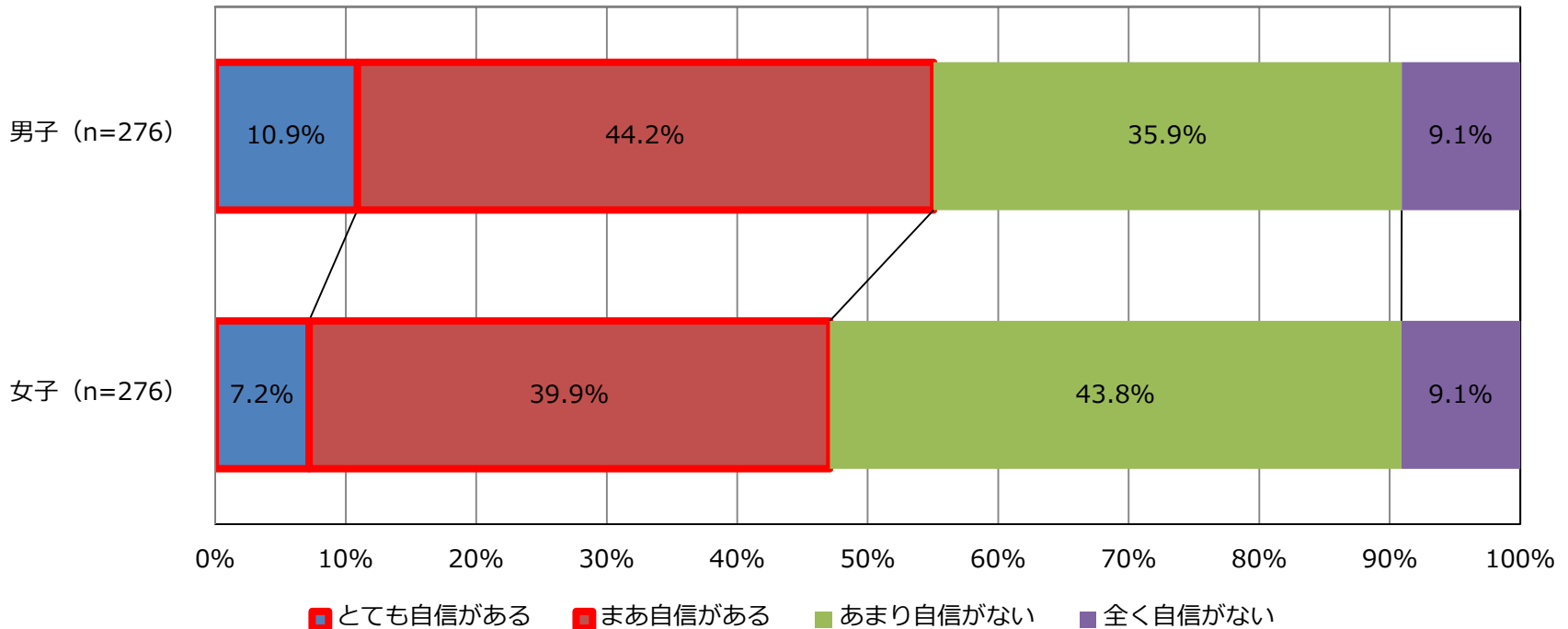
対面や電話でのコミュニケーションについて
「とても自信がある」との回答のみ青少年のほうが高い



オフラインコミュニケーションの自信 (青少年の性別)



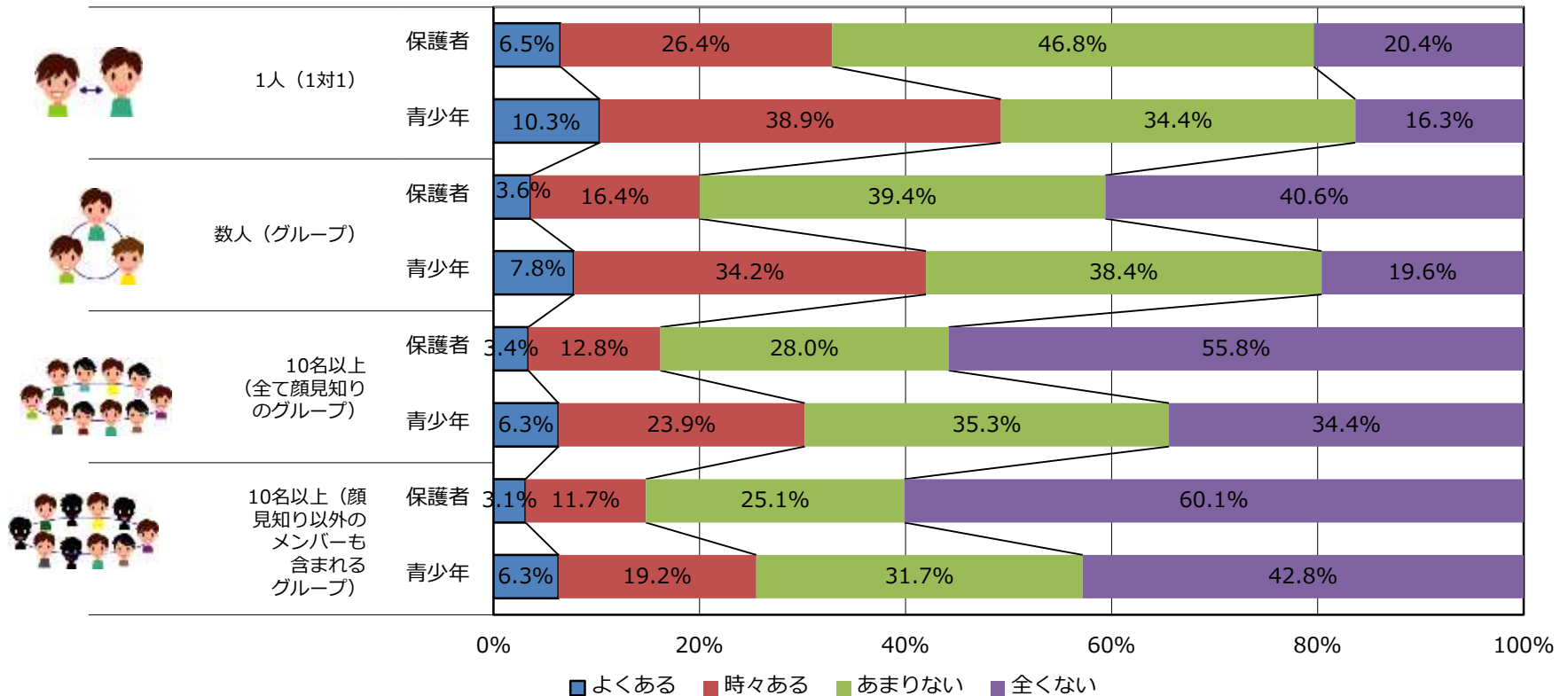
あなたは、対面や電話でのコミュニケーションを日頃からうまく進められているという自信がありますか？（単一回答）



男子の方が対面や電話でのコミュニケーションをうまく進められていると回答

オンラインコミュニケーションで困った経験 (相手の人数別) (青少年と保護者の比較)

あなたは、オンラインコミュニケーションで、相手との意思疎通がうまくいかずに困ったこと、嫌な思いをしたことはありますか？ それぞれの項目について当てはまるものをお答えください。(単一回答) (n=554)

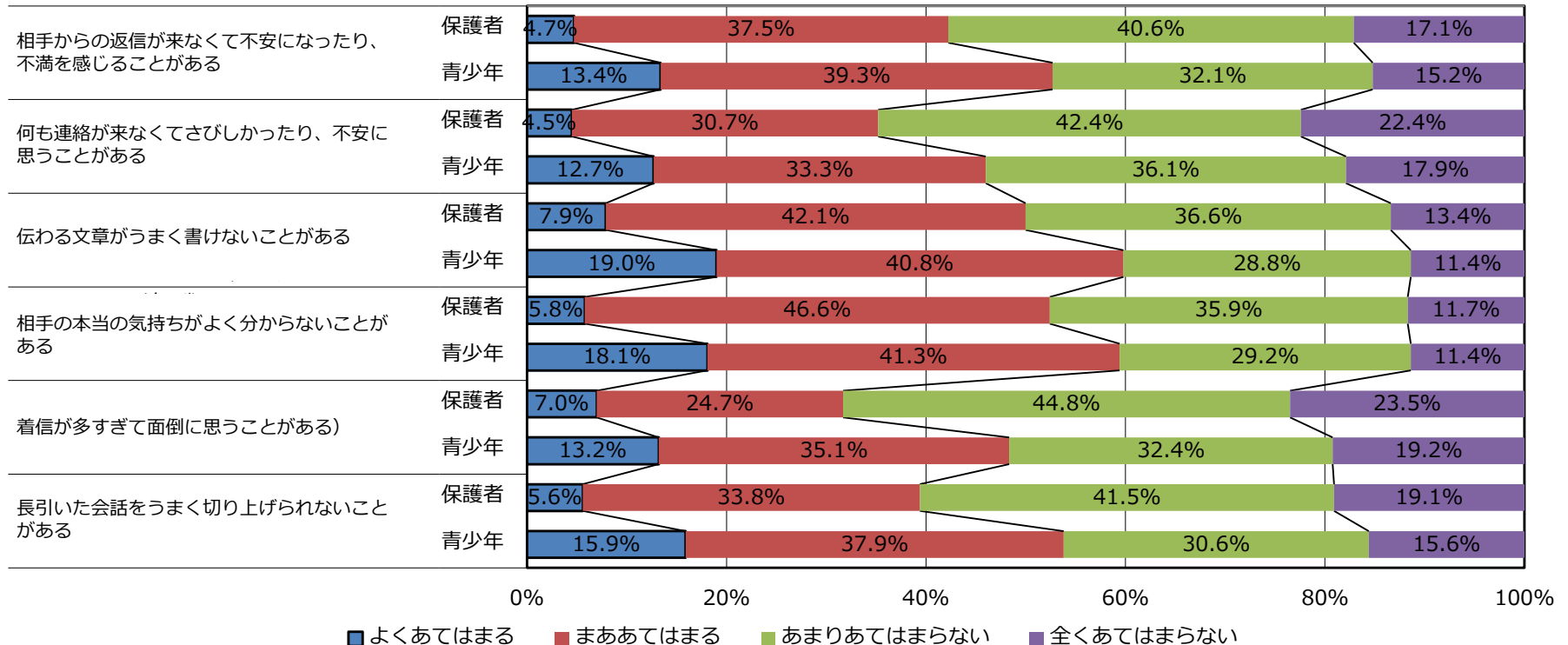


「困ったこと、嫌な思いをした」経験は保護者と比べて青少年の方が多い

オンラインコミュニケーションに関わる悩み

あなたのオンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安はどのようなものですか？それぞれの項目について当てはまるものをお

答えください。単一回答）（n=554）



オンラインコミュニケーションに関わる悩みや不安は
全ての項目で青少年の方が大きい



Appendix

「子どもたちのインターネット利用について考える研究会 (子どもネット研)」とは

2008年、一部のゲームサイトやコミュニティサイトを利用していた子どもたちが、犯罪やトラブルに巻き込まれるという事件が問題となり、インターネット利用を法規制すべきだという考えのもと、青少年インターネット利用環境整備法が審議されました。

子どものインターネット利用が既に一般化した状況下では、携帯を取り上げるような趣旨での法規制で事態の改善をはかるのは現実的ではないと考え、保護者やユーザーだけでなく、事業者や専門家も一体となって取り組むことが必要なのではないかと感じ、ヤフー株式会社とネットスター株式会社によって、2008年の4月に「子どもネット研」は設立されました。

子どものインターネット利用に関する問題は、「これをすれば大丈夫」という根本的な解決策は存在しません。だからこそ、一番重要なのは子どもとの対話です。親子の信頼関係の上で、家庭内でルールをつくり、何かあったら相談するよう日ごろから声がけをするなど、日々積み重ねが一番の防御策と考え、対話を行う上での声がけのヒントを教材として提供しています。





お問い合わせ先



本研究会の活動に関するお問い合わせは、
公式HPのお問い合わせフォームより
ご連絡ください

<http://www.child-safenet.jp/>

検索サイトで『子どもネット研』と検索してください。

